

E-45 女性の職業継続意欲とその形成要因に関する研究

— 山口県下民間事業所勤務女性の意識調査 —

○ 山口女子大 中間美砂子 篠目小 山野井佳子 中村学園大 山本秩子

目的 現在、働く女性が増加してきているとはいえ、その職業継続のための条件は必ずしも十分とはいえない。そこで今回、他に比して比較的職業継続が困難だとされている民間事業所を対象に、女性の職業継続意欲の実態を知るとともにその形成要因を探り、女性の職業継続上の問題点の究明を試みることにした。

方法 山口県下4地区より5業種にわたり25事業所を抽出し、そこに勤務する常勤の女性1859名を対象に調査を実施した。調査内容は、職業継続意欲、性別役割分業意識及び、勤務条件、家事・育児についての意識と実態に関するもので、質問紙による留置法を用いた。期日は、昭和54年7月末～9月上旬、回収率は70.9%であった。

結果 職業継続意欲は、未婚より既婚が、若年層より中・高年層が、高学歴より低学歴が、勤務年数は短期より長期が、職歴パターンでは継続型より中絶型が、市街地より農村地区が、事務・販売系よりサービス・生産系が高い傾向を示し、性別役割分業意識についてもほぼ同様の傾向がみられた。又、職業継続意欲が高い者は、生活目標や満足を感じる場としては家庭生活を第一にあげ、就業理由としては、経済的なものを多くあげている。このことは、家庭を守るために経済的裏づけが必要で、そのために職業を継続したいという意欲が強くなっていることを示しているといえよう。一方、勤務条件に関する意識は、継続意欲と全く逆の傾向を示し、勤務条件の悪さから意欲を喪失している層と、継続意欲は高いが、権利意識については無自覚な層がみられ、各々問題をかかえている。更に、家事・育児面では理想と実態で大きなズレがみられ、ここにも多くの問題がある。